

弁護士になって一内省と抱負一

会員 山本 和広



弁護士を志望したきっかけ

私は、潰しが利くからという何ともし難い加減な動機で、大学は政治経済学部に進学した。漠然と、将来は人の役に立てる仕事に就きたいとは考えていたものの、大学時代は飲み代、バイクの購入費等を稼ぐためにスポーツジムのトレーナーのアルバイトに明け暮れ、法律とは全く無縁の生活を送っていた。

そんな中、某ドラマを見て、被害者のために奔走し、被害者から感謝される検察官の姿に憧れ、検察官を志すようになった。しかし、司法修習の弁護士修習で、依頼者に親身に接する指導担当の羽田由可弁護士（兵庫県弁護士会）の姿、依頼者の喜ぶ姿を見て、法律問題で悩む多くの方々に助けたいという気持ちの方が強くなり、弁護士を志望するに至った。

弁護士業務を開始して感じていること

本年1月に現在所属する法律事務所に就職し、弁護士業務を開始して1ヶ月あまりが経過した。当事務所は、幅広い業務を取り扱う、いわゆる町弁の事務所である。この1ヶ月で、いわゆるボス弁の難波英俊会員と共に、一般民事、労働事件、破産事件、遺産分割事件、離婚事件、刑事事件等の様々な分野の業務に携わらせていただいている。

依頼者との打合せ毎にボス弁から、法的手続の流れ、紛争の争点とその解決手段、依頼者に対する説明の仕方等、種々のことについて指導を受けてい

るが、その中で自分の未熟さを痛感している。司法試験の勉強では全く扱わなかった法律を見ることもあるし、司法修習中には意識できていなかった法律手続の流れを初めて知ることもある。

ボス弁からは、弁護士として一番大切なことは、依頼者に安心感を与えることだと言われている。法律問題に悩む依頼者は、現状を不安に思い、法律事務所の相談に来ている。依頼者に適切なアドバイスをし、安心感を与えられるようになることで、信頼を得ていけるのではないかと感じている。そのためには、法的手続に精通していることが前提となるはずであるから、業務を行う中で日々勉強していかなければならない。

ワークライフバランス

私の所属する法律事務所では、弁護士が休日出勤をすることが多くある。私はバレーボール、フットサル、スノーボード、旅行を趣味としているが、それらは休日にしかできないので、仕事と趣味の双方を充実させる方法に悩んでいる状況である（悩んでいると言いつつ3連休にスノーボードに行き、その最中、ボス弁は依頼者との打合せ、書面の作成を行うために出勤しており、ボス弁に負担をかけてしまった。）。心置きなく休日を趣味に費やせるためには、平日に仕事をこなせるようになる必要がある。

ちなみに、最近ゴルフのレッスンに通い始めた。仕事に精一杯取り組むと共に、ゴルフも上達できるように頑張っていきたい。